

誰もが、誰かの  
きっかけに。

# SOU 創発 HATSU

BASSEMBALL  
STARTER

今年は  
勝負の一年！

TSUDA  
66



今回も白熱しました！

## ZEMI-1 グランプリ2025

p.04>>

SOUHATSU 的 教授紹介

情報社会学部  
安彦智史准教授



最前線  
— 獣害対策と闇バイト抑止の

データとAIで  
社会課題に挑む

p.06>>

INTERVIEW:

## 卒業生 インタビュー

阪神タイガース  
津田 淳哉 選手

p.02>>

大学弓道の頂点！

## 「王座」で 日本一に

- ・全日本学生弓道選手権大会(インカレ)
- ・全国大学弓道選抜大会(選抜)
- ・全日本学生弓道王座決定戦(王座)



p.08>>

p.08 news & topics

p.14 大樟会だより

# BASEBALL STARTS HERE



TSUDA  
66

津田 淳哉

2001年生まれ、奈良県出身の右投右打・投手。大阪経済大学経済学部を2024年に卒業。背番号66。最速152キロのストレートを武器に、プロの舞台で挑戦を続けている。

## 名監督との出会いをきっかけに、プロの道へ。

2023年のドラフト会議で阪神タイガースから6位指名を受け、プロ入りを果たした津田選手。彼の野球人生に大きな影響を与えたのは、WBCでのコーチ経験もある高代延博監督との出会いだった。

「僕が大学3年生の時に、高代監督が監督に就任されました。自分はピッチャーとして球速にこだわっていたのですが、配球やバッター心理を考えることの重要性を



教わり、投球に対する考え方が大きく変わりましたね」

プロ入り後も高代監督は津田選手を気にかけて、助言を続けてくれていたという。しかし、2025年12月、

高代監督は病気のため永眠された。

「高代監督がいなければ、今の自分はなかったと思います。1軍の舞台、甲子園で投げる姿を見せられなかったことが本当に悔しいです。でもきっと、活躍することが一番の恩返しになると思うので、これまで以上に練習に励みたいです」

そう語る津田選手の言葉からは、深い感謝と決意がにじんでいた。

## 憧れの阪神タイガースで感じた、学生とプロの違い。

小学4年生から野球を始めた津田選手は、幼い頃からの阪神タイガースファン。祖父母に連れられ、甲子園球場で何度も阪神戦を観戦していたという。

「昔はスタンドから応援していた選手たちと、今は

チームメイトとして話している。その状況が、最初はすごく不思議でした」

プロ1年目は、周囲についていくことで精一杯だった。大学野球とプロ野球の違いを日々の中で強く実感したという。

「大経大の野球部は個人練習がメインでしたが、プロはチーム練習が大半を占めます。当初はチーム練習の流れや、力の入れ具合がなかなか掴めず苦労しました。また、朝から晩まで練習や試合が続くので、体の使い方も学生時代とはまったく違います。自分の調子の良し悪しをはっきり分かるようになり、体づくりを意識した生活を、より一層心がけるようになりました」

また、多くの野球ファンの視線が一挙一投足に注がれる点も、学生時代との大きな違いだ。

「自分に関するスポーツ報道などからは、あえて距離を置くようにしました」と苦笑いする津田選手。学生時代とは全く異なる環境で試行錯誤するプロ1年目だった。

## プロとしての現在地——

### 勝負の3年目に向けて

プロ入り2年目を迎えてからは、練習や調整の進め方にも少しずつ余裕が生まれてきたという。

「1軍で活躍している選手の方と話していて、共通して感じるの、とにかく前向きだということ。『こうなったらどうしよう』と不安になるのではなく、『次はどうしよう』と常にプラスに考えているんです。技術ももちろんですが、メンタルや思考法の重要性を感じています」

最近、メジャーリーガーの松井裕樹選手と一緒に練習する機会にも恵まれた。



「カットボールを松井選手に教えてもらいました。それがすごく自分に合っていて、困ったときの武器になっています。今はストレートとカットボールを軸にしています」

プロ入り3年目となる来季は、津田選手にとって大きな節目となる。

「大卒3年目。ここで1軍で活躍できなければ、今後の野球人生はないと思っています。

次が本当の勝負です」

最後に、母校・大阪経済大学への思いを次のように語った。

「大阪経済大学野球部でのさまざまな経験が、自分をプロの舞台へと導いてくれました。同窓生の皆さんに、『母校の卒業生がプロ野球選手として頑張っている』と思ってもらえるよう、全力でプレーします。ぜひ活躍を見てください」

勝負のシーズンに挑む津田選手の挑戦から、目が離せない。

2023年、阪神タイガースからドラフト6位指名を受け、プロ野球の世界へ踏み出した津田淳哉投手。大阪経済大学での出会いと成長、プロ野球選手としての課題と覚悟、プロの世界での現在地を語ってもらった。

故・高代監督と津田選手の対談はWEBにも掲載中です。ぜひご覧ください。



# ZEMI-1 GRAND PRIX 2025

第16回  
ZEMI-1  
グランプリ

本学で長年続く「ZEMI-1グランプリ」は、学生たちが日頃のゼミ活動で積み重ねてきた成果を発表する場です。今回、栄冠に輝いたのは二本杉ゼミのチーム「Re\_Junesis」。災害関連死を少しでも減らしたいという思いから、地理情報を活用し、地域の「暮らしやすさ」を予測するモデルの開発に挑みました。試行錯誤を重ねた細やかなデータ設計と、実用化までを見据えたりサーチ姿勢が高く評価されました。このほかにも、「農作物の鳥害対策」や「ごみ分別サポート」など地域課題に向き合う研究、「梅田の地下街」や「クレジットカード」といった身近なテーマを掘り下げた研究など、学生ならではの視点と熱意あふれるプレゼンテーションが会場を盛り上げました。



## VOICE

優勝チームリーダーの声



村上 旅途さん  
(経済学部3年)

二本杉ゼミでは、毎年ZEMI-1グランプリに力を入れており、私たちが春学期から準備を進めてきました。しかし、夏の中間発表では散々な結果に終わり、大きな悔しさを味わいました。その悔しさを原動力に、研究テーマをゼロベースで見直し、秋学期はほとんどの時間を本研究に注ぎました。研究を進める中では、二本杉先生の的確なご指導はもちろん、ゼミの先輩方のアドバイスや体験談が、大いに参考になりました。また、災害と地理情報をテーマにするにあたり、空間情報の研究をされている先生や、防災に詳しい

人間科学部の先生にも積極的に相談し、多角的な視点を取り入れることができました。

試行錯誤を重ね、さまざまな角度からテーマを深く掘り下げられたことが、優勝という光栄な結果につながったのだと思います。ZEMI-1グランプリは、研究の成果を競う場であると同時に、仲間と本気で議論し、協働して一つの答えを導き出す力を育ててくれる機会となりました。



## FINALIST

決勝出場チーム

出場チーム(発表順)	研究テーマ
New Jeas (乳児s) (二本杉剛ゼミ)	経済 / 10代の養育経験が出生行動に与える影響
鳥貴族 (井上晴可ゼミ)	情報社会 / 深層学習を用いた農作物の鳥害対策
BioCle (中村健二ゼミ)	情報社会 / 廃棄物から生まれる生分解型素材循環サービス「BioCle」
2nd Mr.インクルーシブ (船越多枝ゼミ)	経営 / Mr.インクルーシブ、現る! ~誰もが輝ける職場へ~
CREDIT SAVER (萩原誠ゼミ)	経済 / キャッシュレスじゃだめですか? ~クレジットカードの付き合い方~
身バレを守り隊 (井上晴可ゼミ)	情報社会 / 深層学習を用いた身バレリスクの判定
しずサポ (中村健二ゼミ)	情報社会 / 騒音検知・通知サービス「しずまるサポート」
タングリー六津帝国 (大津博子ゼミ)	情報社会 / 都市構造から見る複雑空間の課題と改善案 ~梅田地下迷宮の正体とは~
3rd パワフル (米川雅士ゼミ)	情報社会 / 画像認識によるごみ分別サポートアプリ
工芸めぐり「技旅(わざたび)」(中村健二ゼミ)	情報社会 / 読む・体験する・買える!工芸めぐり「技旅」
1st Re_Junesis (二本杉剛ゼミ)	経済 / 暮らしやすさスコアを用いた予測モデルの提案:災害関連死低減への応用
Linkers (中村健二ゼミ)	情報社会 / 日本で働く外国人向け支援サービス「ことばLink」

# SOUHATSU 的 教授紹介

「へえ」と言いたくなるトリアから最新研究まで、教授の専門分野について聞いてみました！  
今回は、情報社会学部の安彦准教授による「情報技術研究開発の社会実装」についてのお話です。

## 研究の社会実装を目指して

大学院で情報学を学んでいた頃からずっと感じていたことがあります。それは、多くの研究論文が発表されているにもかかわらず、実際に社会に実装されている技術はごく一部に限られている、ということです。だからこそ、大学教員となった今、自分の研究を論文発表で終わらせるのではなく、社会課題の解決にしっかりとコミットさせたいと考えようになりました。

### 研究トピック.01

## 獣害対策ロボット「モンスターウルフ」の開発協力

前職から参画しているプロジェクトの一つが、「モンスターウルフ」の自動走行に関する研究です。モンスターウルフは、北海道の企業ウルフ・カムイが開発した、オオカミを模した獣害対策ロボット。LEDによる強烈な光と、大音量のオオカミの鳴き声で、クマやシカ、イノシシ、サルといった農業被害を引き起こす野生動物を威嚇し、銃や罠とは異なる方法で撃退します。私はこのモンスターウルフに対して、**自動走行や人工衛星を用いた遠隔操作など、技術面での開発協力**を行っています。

実証実験では、対象エリアに複数台のカメラを設置し、どの動物が、いつ、どのように出没するのかをデータとして蓄積します。そのうえで、動物の種類ごとに最適な対策を

検討していきます。たとえば、クマは一度強い危機感を感じるとその後ほとんど寄り付かなくなる一方で、シカは何度も現れるなど、動物の性質によって有効な対応は大きく異なります。また、バッテリー消費を抑えて稼働時間を延ばすことや、ネットワークが不安定なエリアでも通信を確保することなど、技術的な課題も少なくありません。

こうした取り組みを通して、一つの技術だけでは解決できない、社会実装の難しさを実感しています。モンスターウルフはこれまで全国で300台以上販売され、テレビや新聞でも多数取り上げられてきました。必要性も注目度も一層高まる中、**太陽光発電の研究者や3Dプリンタの技術者、農業ロボットの研究者など、さまざまな分野の専門家と協働しながら**、改良に向けた試行錯誤を続けていきます。

### 研究トピック.02

## 闇バイト勧誘投稿の自動検知システム開発協力

もう一つ、社会実装を強く意識して取り組んでいるのが、闇バイト投稿を対象としたサイバーパトロールプロジェクトです。私は福井県警の「サイバー犯罪テクニカルアドバイザー」として、SNSによる闇バイト勧誘の対策に関わっています。

X(旧Twitter)などのSNSでは、「闇バイト」「裏バイト」といった言葉とともに、「月給100万円〜」「リスクなし」など、関心をおおる投稿が日々大量に流れています。そのなか

2025年4月に情報社会学部に着任された安彦准教授。実社会と連携した独自の研究スタイルについてお伺いしました。

# データとAIで社会課題に挑む — 獣害対策と闇バイト抑止の最前線

ら、実際に犯罪の実行役を募る投稿を見極めることが大きな課題でした。これまでは、捜査員が目視で投稿を一件ずつ確認し、該当するものを探し出していました。そこで、**闇バイト勧誘の特徴をAIに学習させ、投稿を自動で検知・抽出するシステムを開発**しました。AIが抽出した投稿を捜査員が確認し、警告を送る運用に切り替えたことで、人手だけで探していた従来の方法と比べ、対応速度は大きく向上しました。具体的には、Xでは従来の約2倍、Instagramでは約34倍のスピードで警告を出せるようになり、県警の業務効率化に大きく寄与しました。

一方で、**犯罪に使われる隠語は常に変化しており、絵文字や画像・動画の中に紛れ込むケースも増えています**。今後はテキスト解析に加え、画像や動画を対象とした解析技術の導入が課題です。実際の犯罪捜査と直結する研究に取り組んでいる点に、社会的意義を感じています。

## 教員として学生に伝えたいこと

本学での、私のゼミのテーマは「空間情報」です。さまざまなデータを地図上に落とし込み、可視化・分析することを通して、社会の課題を読み解く力を養うことを目的としています。学生たちはとても柔軟な発想で取り組んでくれています。ただし**空間情報の研究は、意外と泥臭い側面もあります**。だからこそ私

は、学生たちに「**足を使って**」研究してほしいと常々伝えています。私自身、鳥獣被害の実態を把握するために何度も現地へ足を運びましたし、猟友会の方々と同じ目線で話ができるよう、狩猟免許も取得しました。インターネット上の情報だけでは、現場が抱える具体的な課題は見えてきません。学生の皆さんにも、ぜひ現場に足を運び、当事者とコミュニケーションをとりながら、自分自身でデータを集めてほしいと思っています。

## 社会実装には「創発」が欠かせない

私が取り組む「獣害対策」と「闇バイト抑止」は、扱う分野も課題の性質もまったく異なります。しかし共通しているのは、どちらも具体的な社会課題であり、データを活用することで解決の糸口が見えてくるという点です。そして**どちらの研究も、一人の力だけでは決して解決できません**。開発も社会実装も、立場や専門分野の異なる人々と協力しながら進めていく必要があります。役所の方、警察の方、分野の異なる研究者や技術者——そうした多様な人々とコミュニケーションを重ねながら、試行錯誤の中でプロジェクトを前に進めていく。異なる視点が変わること、新しい発想や解決策が生まれる。私は、そうした「創発」を大切にしながら、これからも社会に開かれた研究を続けていきたいと考えています。

## 安彦 智史 准教授

関西大学大学院修了。青山学院大学、仁愛大学での勤務を経て、2025年本学着任。専門分野は空間情報、テキストマイニング、画像処理など。



# SOUHATSU news & topics

## クラブ活動

### 弓道部(女子)20年来の悲願、 大学弓道の頂点 「王座」で日本一に

弓道部(女子)が、大学弓道の三大大会の一つである「全日本学生弓道王座決定戦 第49回女子の部」において、見事全国優勝を果たしました。大学弓道の「三大大会」とは、右記の大会を指し、学生弓道において最高の名誉とされています。

本学はこれまで、「選抜」と「選手権」でタイトルを獲得し確かな実績を積み重ねてきましたが、弓道部にとっての最終目標ともいえる「王座」だけはあと一歩が届かず、20年来の悲願となっていました。そして2025年11月——その“最後のひとつ”が、ついに大阪経済大学の矢によって射抜かれました。決勝の舞台では、的中数 63本(大阪経済大学)対 53本(日本大学)という圧倒的な結果で全国屈指の強豪校を退け、悲願の王座初優勝(日本一)を達成しました。2年ぶり7度目の王座出場でつかんだ栄冠。積み重ねた鍛錬と、先輩から受け継がれてきた思いがひとつになった瞬間でした。



大学弓道・三大大会

- ・全日本学生弓道選手権大会(インカレ)
- ・全国大学弓道選抜大会(選抜)
- ・全日本学生弓道王座決定戦(王座)

## 施設

### 硬式野球部の新施設が 茨木グラウンドに完成

2025年8月、茨木グラウンドに、硬式野球部の新施設(全面人工芝の室内練習場、屋外ブルペン、ダグアウト、クラブハウス、本部棟)がリニューアル・新設されました。室内練習場は広さ1,168㎡、全面に人工芝を敷設。ブルペン2レーンのうち1レーンはメジャー仕様の硬さのマウンドとなっています。162.48㎡(約100畳)のトレーニングルームは、多彩なトレーニング器具を揃えており、選手の体力強化を支えます。

また、全施設がバリアフリー設計となっており、地域拠点として市民イベントでの開放も予定しています。本施設はサンケイスポーツ(サンスポ)の特集「Deep Baseball」においても紹介されました。

記事はこちら



## スポーツ

### 相葉 颯一郎さんが ハンドボール実業団 アルバモス大阪へ短期入団!

経済学部 3年相葉颯一郎さん(ハンドボール部主将)が、2025年11月にプロチーム「アルバモス大阪」に入団しました。

相葉さんは2026年3月までアルバモス大阪でプレーしたあと、本学ハンドボール部に戻り、4月からは大学生最後の学生リーグに挑みます。プロリーグでプレーすることを目指し、日々鍛錬を積み重ねてきたという相葉さんの努力が実を結び、今回のプロ入りとなりました。



## 講演

### はるな愛客員教授による講演会 「LGBTQ+当事者が語る 『自分らしさ』とは」

2025年10月6日(月)、LGBTQ+当事者でタレントのはるな愛氏をお招きして、「自分らしさ」をテーマに講演会を開催しました。本学の客員教授も務めるはるな氏は、持ち前の明るい笑顔で学生たちの前に登場。会場は一気に和やかな雰囲気に包まれました。講演の前半では、はるな氏がこれまで歩んできた人生について語られ、後半では「LGBTQ+という言葉を知るよりも、今、とにらんでいる人の困りごとに気付くことが大切なのだと思います」と、学生たちに向けてメッセージが送られました。

LGBTQ+当事者だからこそ紡がれる言葉の一つひとつに込められた深い思いを、学生たちも真剣な表情で受け止めている様子でした。

## 講演

### アグネス・チャン客員教授 による特別講義

### 「大阪から社会に貢献するために ～学生生活のなかでできること～」

2025年10月15日(水)、経済学部「大阪の経済と文化」の講義にアグネス・チャン氏をお迎えし、特別講義を実施しました。アグネス氏は2024年度、本学の客員教授に就任。芸能活動にとどまらず、エッセイスト、ボランティア活動、大学教授など、幅広い分野で活躍しています。今回の特別講義では「大阪から社会に貢献するために～学生生活のなかでできること～」と題し、アグネス氏が歩んできた道のりの中で得た気づきを踏まえ、学生たちがこれからの社会で活躍し貢献するためのヒントについて、お話いただきました。

実習プログラム

国際共創学部  
「地域探究型実践プログラム」に  
第一期生が参加!

国際共創学部では、学部創設後第一回目となる実践プログラムとして、デンマーク、島根県、高知県などで約1週間の現地滞在型「地域探究型実践プログラム」を実施しました。国際共創学部の第一期生(2年生)が参加し、現地の人々や企業、団体との交流を通して、グローバル・ローカルを融合した実践的な学びを深めました。

滞在先	活動内容
デンマーク	北欧独自の教育機関フォルケホイスコーレ(生涯学習の場)、マイノリティを支援するHuman library、スタートアップ企業を訪問。ダイバーシティ+クリエイションに先進的なデンマークの取り組みへの理解を深めました。
島根県	世界遺産・石見銀山周辺でのフィールドワークを実施。地域で活動する企業・団体・自治体の方々から話を聞き、地域課題について理解を深め、成果発表会で提案を行いました。
高知県	「防災ツーリズム」をテーマに、高知県黒潮町でのフィールドワークや四国電力への訪問を実施。防災・減災の視点から地域課題を捉え、成果を発表しました。



▲デンマーク



▲島根県



▲高知県

産学連携

学びの舞台はアリーナへ—  
スポーツと地域を結ぶ  
学生たちの挑戦

人間科学部の集中講義「スポーツ実務実習a(企業PBL型)」では、プロバスケットボールチーム「神戸ストークス」のホームアリーナであるGLION ARENA KOBEを運営する株式会社One Bright KOBEの協力のもと、学生たちが実社会の課題に挑みました。同社は、アリーナを拠点に「スポーツ×地域」をテーマとしたまちづくりやイベント運営を行う企業で、学生たちはその活動を通して、スポーツビジネスが地域に果たす役割を学びました。



地域連携

経営学部  
「地域ビジネス研修」in 和歌山県田辺市

経営学部では、2025年8月29日(金)、9月9日(火)～11日(木)、28日(日)の5日間にわたり「地域ビジネス研修」を実施しました。本研修は、学生たちが日本各地の地域資源や課題、文化を知り、地方の魅力を最大限に引き出す新規ビジネスを開発することを目的とした課外セミナーです。2025年度のミッションは、「旧田辺町に、まちの魅力を発信するゲストハウスを企画せよ」。経営学部および経営学研究科に所属する1年生から大学院生までの8名が参加し、ビジネスプランを考案しました。



地域連携

能登半島地震の現場で学ぶ“実践起業研修”  
—ENT塾サマープログラムを実施

起業や事業創造を志す学生のための課外プログラムである大経大ENT塾(アント塾)が主催する「ENT塾サマープログラム」が、2025年夏に実施されました。本研修は、能登半島地震の被災地・石川県志賀町を舞台に、現地の課題解決と地域の魅力発信を目的とした全6日間(うち現地3泊4日)の合宿型プログラムです。学生たちは復興に取り組む人々と直接関わりながら、地域社会に新たな価値を生み出す“実践的な起業研修”に挑みました。



地震発生直後から復興支援を続けるNPO法人LOVE EAST(代表理事:天野真信氏、理事:三浦灯氏)および志賀町社会福祉協議会(茂尾和弘氏、山崎美里氏)の協力のもと、学生たちが現地住民と交流しながら、地域課題の解決を目指したビジネスプランを構想しました。現地での経験は、支援活動を超えて、他者を理解し共に未来を描く、実践の学びへとつながりました。



海外実習

フランスの地で経済を考える—  
「海外実習」での  
グローバルな学び

経済学部の全学オープン科目「海外実習(フランス)」では、農業分野を題材に現地の経済を実践的に学びます。ワインやチーズの生産現場を訪れ、経営戦略を通してグローバルな視点を養います。2025年度はパリ、ディジョン、モンペリエで実習を実施。農業系政府機関アンスティチュ・アグロを訪問し、英語による講義を受講しました。本学からは学生9名が参加し、鈴木隆芳教授が引率しました。



フォーラム



最優秀政策提言賞

優秀政策提言賞

経済学部の学生が  
ISFJ日本政策学生会議において、  
最優秀政策提言賞と  
優秀政策提言賞を受賞

経済学の視点から現代日本の課題を検証する学生団体「ISFJ日本政策学生会議」の政策フォーラムが、毎年12月に開催されています。2025年度のフォーラムでは、本学経済学部の2つの学生チームが快挙を達成しました。土井遥斗さん(4年生)が率いるチームは談合防止対策の効果を実証し、最優秀政策提言賞。川村結愛さん(3年生)が率いるチームは医療費増加問題に提言し優秀政策提言賞を受賞しました。両チームは他の研究発表会でも入賞し、高い評価を得ています。



教育・研究

## 若吉浩二教授が 日本水泳水中運動学会にて 「最優秀論文発表賞」を受賞

人間科学部の若吉浩二教授が、日本水泳水中運動学会2025年次大会(10月24日～26日 於:中京大学)において「最優秀論文発表賞」を受賞しました。論文タイトルは「ペットボトル・フラットヘルパー活用による小学校水泳授業での実践的取組～泳力の二極化問題解消に向けて～」です。本研究の目的は、小学生を対象に若吉教授が自ら開発した水泳補助具「フラットヘルパー」を活用し、「安全水泳」と「泳法習得」という二つの要素を取り入れた水泳授業を実施し、その学習内容と指導方法が“泳力の二極化問題”の解消につながるかを検証することにあります。泳げる子どもと泳げない子どもが同じ授業に参加する学校水泳は、教員にとって非常に難しい課題であり、本研究はその解決に取り組んだものです。

教育・研究



## 井上晴可准教授 カンファレンス「The Conference of Digital Life vol.3」で Young Researcher Awardを受賞

情報社会学部の井上晴可准教授が、9月6日に岡山市で開催された電子ジャーナル「Journal of Digital Life」主催のカンファレンス「The Conference of Digital Life vol.3」において、優れた講演論文発表を行った研究者に贈られる「Young Researcher Award」を受賞しました。井上准教授の発表は、二輪車乗車中の事故低減を目指す研究についてであり、2種類の360度カメラを対象に、YOLOを用いて動画画像から路面上の危険物を検出する手法を適用し、異なる条件下で検証したものです。この手法は、カメラの種類、解像度、YOLOのバージョンなどの条件が異なる場合において、概ね正確に危険物を検出できることが確認され、汎用性の高い技術として高く評価されました。

## だいけいだいキッズ スマイルフェスタを開催 — 防災・教育・福祉を楽しく学ぶ一日に 2,500名が来場

2025年11月23日(日)、大阪経済大学にて「だいけいだいキッズスマイルフェスタ ～みんなでワクワク!まなびとぼうさい～」を開催しました。災害時に地域の避難所として指定されている本学が、地域と連携して防災意識を高めることを目的に実施したもので、「防災・教育・福祉」をテーマにした子ども向けの体験型イベントとして、昨年度に続く2回目の開催となりました。当日は2,500名を超える来場者が詰めかけ、大盛況となりました。

イベント



教育・研究

## 本学教員の書籍紹介 2025年度に刊行された、本学教員執筆・監修の書籍を紹介します。



スポーツと賭博

相原 正道 著  
新潮社



新事業創造の  
マネジメント  
創発型システムの設計

江島 由裕 共著  
白桃書房



中小企業・ベンチャー  
企業論  
混沌を生き抜く中小企業

桑原 武志 共著  
有斐閣



21世紀の国家論  
終わりになき戦争と  
ラディカルな希望

隅田 聡一郎 著  
講談社



新・現代中国経済論

藤井 大輔 共編著  
ミネルヴァ書房



[改訂版]  
公共経営学入門

裕永 佳甫 共編著  
大阪大学出版会

リ・スパーク:トラウマや抑うつを乗り越えて

グレイアム・ミュージック 著  
鶴飼 奈津子 監訳  
誠信書房

集団精神療法テキストブック 総論編

古賀 恵理子 分担執筆  
金剛出版

科学技術政策とアカウンタビリティ

山谷 清秀 監修  
晃洋書房

初学者のための経営学要論

尾身 祐介、陳 俊甫 共著  
同友館

司法福祉 全面改訂版

坂野 剛崇 分担執筆  
生活書院

政治意識研究の最前線

秦 正樹 共著  
法律文化社

21世紀アジア市場と日系企業  
:変貌するグローバル化の中の企業と戦略

高 瑞紅 分担執筆  
慶應義塾大学出版会

中国の政治体制と経済発展の限界  
:習近平政権の課題

福本 智之 分担執筆  
文真堂

コロナ下での芸能実践  
:場とつながりのレジリエンス

竹村 嘉晃 分担執筆  
春風社

租税法務の理論と実践

橋谷 聡一、古賀 敬作、山本 直毅、四條 北斗 分担執筆  
中央経済社

教育・研究

## 教育・研究の顕著な功績を表彰する 「2025年度 教員表彰式」を挙

2026年1月5日(月)、本学にて教職員の新年互礼会および永年勤続者表彰に引き続き、「2025年度 教員表彰式」を執り行いました。教員表彰制度は2018年度に創設され、過去3年間の教育・研究等の実績に基づき、学術上顕著な業績または教育上特に功労のあった教員を表彰するものです。今年度は、人間科学部の坪田祐季准教授が選出されました。



OKUSU-KAI  
NEWSオオクスカイ  
大樟会だより2026  
FEBRUARY

## 岡山市、神戸市と本学との不思議なご縁

**本** 学の前身「昭和高等商業学校」の初代校長であり同窓会（現大樟会）の初代会長でもある黒正巖先生が作詞された「昭和高等商業学校校歌」には「一千餘年のその昔 大隅の宮の在りませし 貴き跡の学園は」とあります。本学の建つこの地は、15代応神天皇の「難波大隅宮」（なにわのおすみのみや）の跡地（注1）です。前号で詳しく述べましたが、全国に四万社以上もあり、皆さんのお近くにも必ずおられる「八幡神社」に祀られている「八幡神」は応神天皇です。

以前から、応神天皇や母君である神功皇后にゆかりの神社等を紹介してきましたが、今回は先日の岡山支部総会出席時に訪れた神社と神戸市の神社を紹介します。

**岡** 山市北区足守の「葦守八幡宮」（あしもりはちまんぐう）が鎮座する葉田葦守の地は、応神天皇の皇妃（こうひ）兄媛（えひめ）の郷里です。日本書紀には、応神天皇即位22年の春に「難波大隅宮」の高台にお二人で登られた時、兄媛が西の方を望み父母が恋しいと嘆いたため、里帰りを許されたとあります。秋になり、天皇は吉備へ行幸（ぎょうこう）（\*）されました。その時、兄媛の兄、御友別（みともわけ）とその子、兄弟のもてなしを受けて大変喜ばれ、吉備の地を川嶋県（かわしまあがた）、上道県（かみつみちあがた）、三野県（みのあがた）、苑県（そのあがた）、波区芸県（はくきあがた）に分国し、それぞれに与えられて、はじめて吉備の建国がなされました。天皇崩御の後、御友別の子が「葉田葦守宮」を興され、現「葦守八幡宮」へと続いています。（葦守八幡宮由緒より）このように吉備の国、建国にゆかりがあり、私たちにもご縁のある大切な神社です。

\* 天皇が居所から外出されること。



当時の想像図

古代、淀川や大和川の河口付近に土砂が堆積して多くの島々ができ「難波八十島（なにわのやそしま）」と称され、水運の要衝でもありました。本学の建つ「大隅」も当時は島で、大隅島（おすみじま）と呼ばれていました。



若き日の黒正先生

漫画：風狸けん（47回）



葦守八幡宮

岡山生まれの黒正巖先生が、窮地に陥った本学を救ってくださったこと、その後岡山から多くの友が本学を目指され、今も多くの後輩たちが学んでいることにも、不思議なご縁を感じてしまいます。以前にも述べましたが、黒正先生のご実家である岡山の布勢神社には、御祭神として応神天皇とご両親（仲哀天皇・神功皇后）が祀られています。私は、先生が多額の私財を投げ打って本学を救おうとされた理由は、そこにあると思っています。

**こ** こで、応神天皇の功績を紹介します。この時代、天皇は多くの優秀な渡来人を招き入れました。阿直岐（あちき）は経典をよく読み、彼が推挙した王仁（わに）は漢字や儒教を広めました。また秦氏（はたお）の祖である弓月君（ゆずきのきみ）は、養蚕、機織り、金属加工、土木技術などを伝えました。この地に渡来した多くの知識人たちが、この国の学問や経済発展の礎となりました。私たちの学舎は、その学問の入口であった宮跡に建っています。2024年、本学に「国際共創学部」が新設されましたが、私には偶然とは思えません。

**も** う一社は、神戸市中央区の生田神社です。三ノ宮駅からほど近い立地ですので、お詣りされた方も多いと思います。日本書紀によると、応神天皇の母君である神功皇后は、遠征の後九州の地で生まれた幼子（後の応神天皇）と共に難波を目指されました。ところが、現在の神戸港まで来ると船が前に進まなくなりました。占うと稚日女尊（わかひるめのみこと）（注2）が現れて「私は活田長峽国（いくた



生田神社

ながおのくに）（\*）に居りたい」と申されたので、海上五十狭茅（うながみのいさち）を神主として祀られました。その後、無事難波に帰還されたそうです。実は、神戸の地名は生田神社から生まれました。806年に、神社にお供えをし、世話をし、守る家である「神戸（かんべ）」44戸を朝廷から与えられました。この「かんべ」が「こうべ」に変化したと言われています。

\* 生田神社のある一帯の古い呼び名

今回は岡山・神戸編をお届けしましたが、すでに熊本・山口は取材済みです。つぎに福岡取材して終了の予定でした。ところが、福井にもご縁の深い神社があることが判明しました。この旅は、まだまだ続きそうです。

（広報部部長・田中伸治）

注1: 「難波大隅宮」は離宮としての宮で、主たる宮は奈良県橿原市の「軽島豊明宮」（かるしまのとよあきらのみや）だと言われています。ただし、応神天皇はこの地で亡くなられたとも言われており、かなり重要な離宮だったと推測されます。

注2: 伊勢神宮にお祀りされる大照大神（あまてらすおおみかみ）の和魂（にぎみたま）と伝えられています。和魂とは、神様の靈魂の穏やかな側面を指し、柔和で慈悲深く、幸福をもたらす働きを意味します。大照大神の「穏やかで優しい面」のみを表す神様です。また、大照大神の妹神とも伝えられています。



◀ 大樟会ホームページ

https://www.osaka-ue-denko.com/

「澱江」のバックナンバーもすべて閲覧可能です。

「はてにゃん。」は、無事「ご当地キャラ博」デビューを果たし、「ひこにゃん」ともお友だちになれました。山本学長はじめ、皆さんの協力のお陰で大成功を治めることができました。大樟会は、今後も本学発展のため協力してまいります。この1年の活動内容は「澱江61号」でご覧ください。



全国高校生エッセイコンテスト  
『17歳からのメッセージ』は

## 2025年度に25周年を迎えました

21世紀に入り絶えず変化し続ける世の中で、  
高校生たちは何を思い、何に悩み、何を目標に生きているのだろう。  
大人でも子どもでもない今だからこそ発せられる言葉……その声を聞いてみたい！  
そうした思いから2001年に始まった「17歳からのメッセージ」は、  
2002年9月の大阪経済大学創立70周年記念事業のひとつとして生まれ、  
これまでの25年間で70万通以上のメッセージが届けられました。  
2025年度の実賞作品は、ホームページからご覧いただけます。

### 募集テーマ

テーマ1 今までの自分、これからの自分

テーマ2 自分にとって「海外」とは

テーマ3 今、これだけは言いたい！（自由課題）

### 第25回 グランプリ

「あした踏み出す第一歩」 匿名希望

「人生の指針」 大阪府立工芸高等学校（大阪府）  
小澤 未悠 さん

「『分かりやすさ』の恐ろしさ」 山形県立致道館高等学校（山形県）  
高田 絢音 さん

第25回 全国高校生エッセイコンテスト

# 17歳からのメッセージ



## 人事

## 2025年度 退職教員

このたび退職される先生方です。  
これまでお世話になり、ありがとうございました。

### 経済学部

- 吉田 弘子 教授
- 近藤 直美 教授
- 櫻山 武浩 准教授
- 岡島 成治 准教授

### 経営学部

- 橋本 信子 准教授
- 後藤 祐一 准教授
- 藤田 里実 講師

### 教育・学習支援センター

- 鴨谷 香 講師

## SOUHATSUの 発行について

年2回発行してきた本誌は、2026年度より年1回の発行となります。  
その分、1年間の動きを凝縮した“ダイジェスト版”として、より価値ある情報をお届けできるよう内容の充実  
に努めてまいります。これからの本誌にも、ぜひご期待ください。